

美しい日本の私—その序説

G組 ノヴァツョーラヴァ イリーナ

子供の頃から、私は夢中で本を読んでいます。絵本や物語や小説など、手にした本を全て愛読しています。私は故郷に立派な文庫を作ってそれをだんだん広げてきました。そして、大学で文献学を学びました。

「剣に砥石が必要なように、思考には本が必要だ。それを研ぎ澄ますなら。」という一節をゾーグマーティンの「氷と炎の歌」とい小説の中で読み感動しました。確かに、読書のおかげで人類は自己開発していると思います。大学で勉強した時、よくこのテーマについて文学の教授と話し合いました。イギリスの文学を顧みイギリスの作家の考え方を分析しました。また、フランスの小説を読んで「愛と友情とは何か」というテーマに昇華しました。文学の一番奇妙な特長は独特な経験を与えることだだと思います。例えば、ギュスターヴフロベールの「サランボ」を読んで

カルタゴの時代の雰囲気と文化が分かるよう
になりました。また、アルゼンチンの色彩を
理解するためにフリオコルタサルの短編小説
を読んでその発端を勉強しました。読書を通
じていろいろなことを学び、心が開かれ、世
界の無形文化を尊重してきました。

ある日、先生から卒業論文のテーマを選ぶ
ように指導がありました。私はその頃、日本
の文化と伝統に興味を持っていて、日本の作
家について研究したいと思っていました。そ
こで、先生に川端康成の「山の音」という小
説をいただいで、日本の文学を自分自身で発
見することになりました。

読み終わってから大きなカタルシスを体験
しました。「こんなに美しい言語があること
を知らなかった。」と感慨にふけりました。文
体も内容も日本の現実をよく表しています。
川端先生の傑作を通して日本の生活や日本人
の考え方や日本の自然を知り、日本のことが
もっと好きになりました。その後、ほかの小

説き読んで、理屈ではなく、心で日本の美し
さを認識しました。日本の小説では簡単な言
葉を使って深い観念を与えます。

今、私は日本で留学生として日本語を勉強
しています。私は来日当初の印象をよく覚えて
います。日本は川端先生の作品の通りに優
美な国だと思いました。全てを詳細にそして
無意識に心で覚えています。街路の音、園芸
植物の香り、夜の居心地がよい照明、日本人
の歓待、子供の笑顔にうっとりさせられる私
は毎日毎日新しい細部を見つめています。

しかし川端先生の本を読んでいながら、た場合
この魅力的な特質を自分で見つけられな
たかも知れません。私は文学のおかげで日本
の日常生活に没頭しています。

川端先生は日本人として初のノーベル文学
賞を受賞し、ストックホルムでの受賞講演で
「美しい日本の私ーその序説」という評論を
発表されました。それは日本人の死生観や美
意識を世界に紹介するものでした。この評論

を通して日本の独自の美学を世界の人々に印象づけました。「死ぬまで美しさに突進したい」と言った川端先生の生き方を表すものでもありました。

現在、ロシア人は日本の文化に関心を持っていて、芥川龍之介や大江健三郎、三島由紀夫などの本を読んでいます。ロシア語に翻訳された日本の小説が日本の美しさと文化を驚くほど正確に伝えていきます。私は本当にロシアの翻訳作業を誇りに思っています。

私も将来、ロシアの美しさを日本に紹介したいと思っています。日本に住んでいる間にいろいろな経験をして、少しずつロシアの小説を日本語に翻訳したいです。ロシア人と日本人の考え方にはたくさん共通点があり、その美しさも必ず共感し合えるものだと思います。いつか、私が翻訳した小説を読んだ誰かが「ああ、美しいロシアの作家だ！」と言うかもしれません。